

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 11月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2 2 7 1 3 0 0 1 6 8
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム 徳倉(とくら)
所在地 (電話番号)	駿東郡清水町徳倉900-1 (055-932-0100)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.0 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	重量鉄骨 造り	
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.0 歳	最低 59 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック・薬袋(みない)内科クリニック・真野歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、ホーム長の人柄と職員の運営への熱意が運営法人のバックアップを得て、地域密着型のホームとして着実に歩みだしている。法人は、ホームからの相談・職員の研修・ターミナルに対する指針の策定等、現場のニーズに応じている。運営推進会議・地域や医療機関との連携・毎月のモニタリングに基づくケアプランの見直し等々、利用者本位の運営が軌道に乗り出している。更にユニットごとの特色を浮き彫りにし、それをホームや職員の課題として研修に生かせば、更なる発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の指摘事項に対して真正面から取り組み、運営推進会議・研修体制・重度化への取り組み・献立への専門家のアドバイス等具体的な改善に結びつけられていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己・外部評価の意義を理解し自己評価票は職員全体で取り組んで作成、運営改善に活かそうとしているが、夫々のユニットの特色を浮き彫りにしそれに合わせた介護が実践されるよう期待する。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は地域の人々や家族・行政等の理解の下に、2ヶ月に1回着実に実施されている。ホームからの状況報告と共に、地域・行政からも大事な伝達や疑問点・提案等が出され、ホームのサービス向上に活かしている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者個々の暮らし振り等は、担当者からのお便りで毎月報告され、家族からも喜ばれている。相談窓口は重要事項説明書にも明記され、事務所にも掲示されて何時でもご意見を聞く体制にある。ご家族の来訪時やTEL等でも気楽に相談を受け付け、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、地域との連携に努めている。地域の行事(お祭り・花火大会・軽スポーツ大会等)にも参加し、防災訓練も一緒に行っている。近隣保育園にはホーム行事への参加要請も行ない交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と一緒に作ったホーム独自の理念として「やさしさ・ぬくもり・家庭的・尊厳」を掲げ、重要事項説明書の運営方針の中に「地域との連携の下で・・・」が謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	解説をつけた理念が事務所の中に掲示され、理念を全員で共有して日々実践すべく努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、地域のお祭り・花火大会・軽スポーツ大会等に参加し、防災訓練も一緒に行っている。近隣保育園との交流もあり、ホーム行事への参加要請も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の指摘事項に対して真正面から取り組み、具体的な改善に結びつけていた。自己・外部評価の意義を理解し、運営改善に活かそうとしている。しかし、今回の自己評価票は、1F・2Fの内容が同じで、ユニットの特色が浮き彫りにされていない。	○	グループホームが、利用者一人ひとりの状態に合わせて介護するように、ユニットの特色を浮き彫りにし、それに合わせた介護が実践されるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の人々や家族・行政等の理解の下に、2ヶ月に1回着実に運営推進会議が実施されている。ホームからの状況報告と共に、地域・行政からも大事な伝達や疑問点・提案等が出され、ホームのサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは絶えず密な連絡や相談を行い、行政の開催する地域ケア会議や分科会にも出席し、サービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との絆を大切にしており、利用者個々の暮らし振り等は、1F・2F夫々で月々分担を決めてきめ細かくお便りで報告し、家族からも喜ばれている。一担当制でないことが、利用者への理解を深める職員の勉強にもなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は重要事項説明書にも明記され、事務所にも掲示されて何時でもご意見を聞く体制にある。ご家族の来訪時やTEL等でも気楽に相談を受け付け、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	先ず職員の定着に力を注いでいる。止むを得ず代わる場合は、必要な人には優しく説明して理解を求めている。また、利用者全員に全員担当制をとっているため、勤務体制により利用者へのダメージを最小限に止めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全体の研修体制が整っており、資格所得の奨励策もある。職員のレベルに応じてホーム内研修や外部研修にも参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームだけでなく、特別養護老人ホームや近くのグループホームとの交流や意見交換も行われている。また、地域包括ケア会議・分科会にも参加し、相互にサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人や家族に見学に来て頂き、利用者の暮らし振りを見た上で疑問点などを話し合い、家族とも相談して徐々に雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として利用者を尊重し、昔の風習や料理の味付け・趣味や得意ごとを教えて頂きながら、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや生活歴、日々の生活の中での声掛けや表情・目の色・顔つきなどから本人の希望や意向を感じ取り、本人の意向に沿うような支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思い・意向を基に、医師や職員の意見、日々の申し送りなどをケアカンファレンスの中で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、3ヶ月に1度介護計画の見直しを行い、毎月のモニタリングやカンファレンスで変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画の見直し・変更を行っている。家族への説明や話し合い・確認印も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、系列他ホームとの合同イベントの開催もあり、個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。提携医による毎日の検診や、週1回の訪問看護師による健康管理や医療相談を行っている。地域医療機関(医院・薬局)との良好な連携が視える。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本社主導による終末期に対する対応指針や同意書が文書化され、本人や家族の希望を聞き話合いの基に、ホーム・医師・訪問看護師との連携の対応システムが作られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者をその人自身として尊重し、居室入室のノックやトイレ誘導なども周りに気づかれないようさりげない声掛けなどで個人のプライバシーへの配慮を行っている。また、記録には実名を載せないよう注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、「無理にすすめることをしない」で本人のペースに合わせて個別に柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、献立、調理、片付けなど利用者と職員が一緒に行っている。また、職員も利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を基本に利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常生活の会話の中から、その人の得意なことや趣味を把握し、無理強いすることなく掃除、洗濯物たたみ、縫い物、調理、歌など、役割や楽しみ事ややる気を引き出す支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近隣のスーパーへの食材買い物や散歩・外気浴の他、季節の花見やお祭り、花火見物(興奮して夜眠れない失敗もあった)・外食など、利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら様々な工夫を凝らしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、日中は鍵を掛けず見守ることを心掛けている。車椅子で外に出た利用者もいたが、見守りながら散歩や外出などで気分転換を図るなどの工夫を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災通報装置を使用した避難訓練を実施している。地域の要援護者に登録し、災害時への備えをしている。非常用の食料・水等の備蓄や防災グッズ等の備品の準備も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年の外部評価での課題に取り組み、保健センターへ栄養管理のために献立チェックを受けたり、毎日の「ごきげんいかが表」にバイタルチェックや食事や水分摂取量の記録が確認出来た。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりと落ち着いており、居間や廊下にはホーム行事の写真や季節の花などが飾られていた。食堂にはソファーや畳の空間が用意され、日中気軽に集う憩いの場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持参して頂くよう家族にお願いしており、居室によって馴染みの机や椅子、テレビ・仏壇・位牌・写真などが持ち込まれていて、居心地よくその人らしい居室が作られている。		